

家畜衛生情報誌

『 一 支 国 』

2014. 秋号



H26.9月 壱岐動物愛護
フェスティバルにて

壱岐振興局農林水産部 壱岐家畜保健衛生所

〒811-5734 長崎県壱岐市芦辺町国分本村触1385-1 TEL : (0920)45-3031

E-mail : s13230@pref.nagasaki.lg.jp

FAX : (0920)45-3386

~Website~

<http://www.n-nourin.jp/ah/agrilink/hukyuu/iki/kakuka/3eiseika.html>

海外における口蹄疫および鳥インフルエンザ発生状況

東アジアを中心に、世界では依然として口蹄疫や鳥インフルエンザの発生が相次いでいます。特に、口蹄疫については、平成23年の発生以降ワクチンで発生を抑えていた韓国において、今年の7月から8月にかけて、3年3か月ぶりに発生が確認されています。農場へのウイルス侵入防止のため、今後も引き続き、飼養衛生管理の徹底強化をお願いします。

2014年9月3日18時00分現在

牛・豚飼養農家の皆様に気をつけてほしいこと

- 農場に入る際には靴や持ち込む物の消毒徹底を。
- 関係者以外の人や車を農場に入れない。
- 農場に立入る車や家畜に直接接触する物は必ず消毒する。
- 発生国に滞在していた人、海外からの土産品、海岸への漂着物など、ウイルスを伝播させる可能性がある人や物は農場に近づけない。
- 口蹄疫が発生している国への渡航はできるだけ自粛する。
- 毎日、必ず家畜を観察して、おかしい時には、すぐに獣医師や家畜保健衛生所に連絡しましょう。

韓国における口蹄疫の発生状況

(2014年7月23日～、O型)

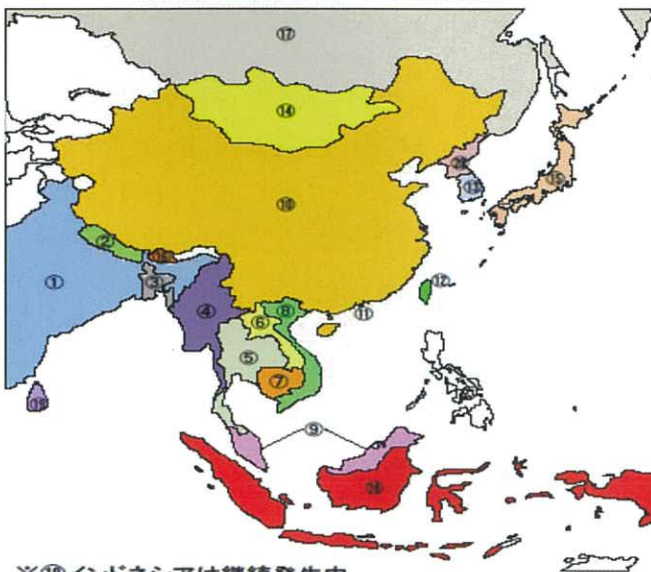


● : 発生地

○ : 済州道

※ 日付は申告日
※ 出典: 韓国農林畜産食品部

アジアにおける高病原性及び低病原性鳥インフルエンザの発生状況



※⑩インドネシアは継続発生中

2014年9月30日現在

出典: OIE WAHID 他

* 1: マカオからの輸入事例(空港で検出)
* 2: 野鳥の糞便からSAIウイルス(H5N8亜型)検出

年	月	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰		
		インド	ネパール	バングラデシュ	ミャンマー	タイ	ラオス	カンボジア	ベトナム	マレーシア	中国	香港	台湾	韓国	モンゴル	日本	プータン	ロシア	スリランカ	北朝鮮
2012年	1月																			
	2月																			
	3月																			
	4月																			
	5月																			
	6月																			
	7月																			
	8月																			
	9月																			
	10月																			
	11月																			
	12月																			
2013年	1月																			
	2月																			
	3月																			
	4月																			
	5月																			
	6月																			
	7月																			
	8月																			
	9月																			
	10月																			
	11月																			
	12月																			
2014年	1月																			
	2月																			
	3月																			
	4月																			
	5月																			
	6月																			
	7月																			
	8月																			
	9月																			

家さん ● 野鳥 ▲
(赤: 高病原性鳥インフルエンザ, 青: 低病原性鳥インフルエンザ) (発生日、検体回収日に基づく)
※ 野鳥の低病原性鳥インフルエンザについては確認可能な日本のみ記載

子牛の防寒対策 ～寒い冬に備えましょう～

子牛は、成牛に比べ被毛や皮下脂肪の量が少ないため、寒さに対する抵抗力が弱く、快適に過ごせる温度の範囲も育成牛や繁殖牛に比べ狭くなっています（表参照）。そのため、寒冷期には子牛にストレスがかかり、免疫力の低下による下痢や呼吸器病の発症リスクが非常に高くなります。

子牛が今年の冬をより快適に過ごせるよう、寒冷期の飼養管理について再確認してみましょう。

①しっかり保温してあげましょう！

牛床が糞尿で湿っていると、腹が冷え体温がどんどん奪われてしまい、下痢や肺炎の要因となります。牛床を常に清潔に保ち、乾燥した敷き藁を厚めに敷くなどの工夫が必要です。また、ヒーターで温めたり、防寒着を着せるのも有効です。

	適温域 (°C)	生産環境限界温度 (°C) ※	
		低温	高温
哺育子牛	13～25	5	32
育成牛	4～20	-10	32
繁殖牛	10～15	-10	30
肥育牛	15～25	5	30

※生産性に影響を及ぼす気温

②換気も大切！

牛舎内にアンモニアガスやホコリ等が増えると、それらが刺激となり呼吸器病を引き起こす危険性が高くなります。定期的に換気を行い、空気の流れを作るよう心がけましょう。また隙間風も大きなストレスとなるため、ベニヤ板やカーテン等を利用し防ぎましょう。

③飼料や水にも工夫を！

寒冷時は体温維持のために普段より多くのエネルギーが必要となり、発育のためのエネルギーが不足してしまう危険性があります。ミルクや餌の量を増やすことで正常発育を心がけましょう。

また冷たい水は牛も飲みたがりませんし、体も冷えてしまいます。ぬるま湯を与えるなどの工夫をしてみましょう。

④清掃・消毒の徹底を！

牛舎内が汚れていると、当然病気が発生しやすくなります。寒さやエネルギー不足から病気になりやすい寒冷期は、いつも以上に清潔に保ち、病気の発生を予防しましょう。



死亡牛の牛海面状脳症（BSE）検査対象月齢変更について

24か月齢以上の全ての死亡牛について、現在、牛海面状脳症（BSE）の検査が義務付けられています。

しかしながら、BSE発生予防対策を実施してきた結果、その発生リスクは大幅に低下したとして、農林水産省は平成27年度から死亡牛の検査対象月齢を48か月齢以上に引上げる方向で検討しています。

死亡牛BSE検査頭数



	平成24年度	平成25年度
24か月齢以上 48か月齢未満	15頭 (15%)	19頭 (21%)
48か月齢以上	84頭 (85%)	73頭 (79%)
計	99頭	92頭

左表のとおり、吉岐では平成24年度は99頭、平成25年度は92頭の死亡牛BSE検査を実施していますが、検査対象月齢が48か月齢以上になれば、約2割程度が検査対象外となる予定です。ただし、検査が不要でも自家所有地での埋却・焼却は出来ませんので注意が必要です。

全共出品牛取得交配が始まります！

第11回全国和牛能力共進会は、平成29年9月7日～9月11日に宮城県仙台市で開催されます。平成24年度に開催された長崎大会では、第8区で内閣総理大臣賞に輝き、長崎和牛が日本一を獲得するという見事な成績を収め、本県和牛の改良レベルの高さを全国に発信することができました。さらに、宮城大会においても優秀な成績を収めることが、長崎和牛のブランドを不動のものとするためには重要です。

そこで、宮城大会に向けて、いよいよ肉用牛の部（第7区～第9区）の取得交配が実施されます。

交配期間は、平成26年11月27日～12月28日で、交配対象種雄牛は、第7区（総合評価群）と第9区（父系去勢肥育群）が安平栄、金太郎3、北福平の3頭、第8区（若雄後代検定牛群）が茂晴23となっています。

現在、吉岐地区推進協議会で交配対象雌牛のリストアップと飼養者への協力依頼を実施中です。

優秀な牛を出品するためには、飼養者の皆様や関係機関、団体が一丸となった取り組みが必要となりますので、皆様のご協力をお願いします。



新人獣医師農家研修～小値賀へ行ってきました～

8月4日から7日の4日間、家畜保健衛生所新人獣医師農家研修として、小値賀町へ行ってきました。農家研修は、肉用牛繁殖農家が営む民泊施設に宿泊しながら農家の暮らしを体験するとともに、日常の飼養管理等を学ぶ研修です。研修は小値賀町和牛部会の濱元部会長の農場で行われました。

研修では、朝から夕方まで農場での作業はもちろんのこと、家畜市場への牛の出荷や診療獣医師との妊娠鑑定など、様々なことを行いました。また、小値賀町の畜産関係の方々とも交流ができ、非常に充実した研修でした。

今研修での経験を活かし、吉岐の畜産業に貢献できるように一層努力したいと思います。

小値賀は吉岐と同様に自然に恵まれたとてもいい所でしたので、吉岐から行くには少々不便ですが、一度足を運ばれてみてはいかがでしょうか。（中野）



H26年度 吉岐動物愛護フェスティバル

9月20日（土）に芦辺町ダイエー前芝生広場にて動物愛護フェスティバルが吉岐市獣医師会主催のもと開催されました。当日は天気に恵まれ、多くの方々に参加されて大盛況となりました。長寿犬の表彰、ふれあいミニ動物園、犬のしつけ方教室、ペットの健康相談、乗馬体験など、盛り沢山の内容となりました。

子供たちには様々な動物たちと触れ合うことはとても貴重な体験となりました。動物の愛護についての関心を抱いていただけたら幸いです。



☆長寿犬の表彰☆



ガンバくんもヤギのエサやりに挑戦!!



対州馬の乗馬体験は大人気!!

3名の獣医学生さんが研修にやってきました！

平成26年8月18日から22日にかけて、インターンシップ研修で3名の獣医学生が来島しました。研修中は、壱岐市農協や壱岐市家畜診療所のご協力のもと、飼養管理体験や、家畜診療研修、関係機関が合同で実施している集合指導での妊娠鑑定・去勢など、様々な業務について学びました。すべてが新鮮だったようで、何事にも興味津々で積極的な姿がとても印象的でした。卒業後、獣医師として現場で活躍される日がとても楽しみです。



感想

今回の実習を通して、壱岐の自然、牛、そして人に触れることができました。実習中はあいにくの天気でしたが、職員の皆様、農家の方が明るく接してくださったため、非常に楽しい実習となりました。5日間にわたり、本当にお世話になりました。

感想

離島での研修は初めてでドキドキしていましたが、島の先生、農家の方々は非常に優しく、充実したものになりました。離島ならではの、のどかな雰囲気と牛と触れ合えます。牛が好きになりました。おいしい食べ物、綺麗な海、たくさんの牛がいるこの壱岐にまた来たいです。ありがとうございました。



宮崎大学5年
椿下さん

宮崎大学5年
山本さん

岐阜大学5年
藤井さん

感想

私は今まで一度も離島に行ったことがなかったため、離島での家畜保健衛生所の業務内容だけでなく、島内に暮らす人々の生活や農家の様子にも興味がありました。実際に、島内の様々な地域に行き、農家の方や獣医師の先生方と出会うことができ、また、私と同じくらい年代の方が真剣に農業に取り組む姿はとても刺激になりました。今後、この研修で経験したことを将来に活かせるようになりたいと思います。お世話になりました。



つぶやき

今年も研修生に来ていただきました。最近では研修生や新人が来てどんな刺激（学術的な意味でいやらしい意味ではありません）を与えてくれるかが楽しみです。我が子と同じ世代の後継者に期待しつつ、これからも研修生を受け入れていきたいです。

（ま）